

【目的】夫婦の関係性ステイタスの観点から、高齢期夫婦の配偶者に対する満足感および夫婦人生の受容状況を分析する。

【方法】(1)調査対象者：広島県在住で、夫婦のどちらか一方が少なくとも60歳以上か、結婚年数が30年以上の有配偶者202名（男性94名、女性108名）。(2)手続き：関係性ステイタス評定のための文章完成法（関係性達成型、献身的関係性型、妥協的關係性型、関係性拡散型、表面的関係性型、独立的関係性型のいずれかに評定）や結婚満足度（袖井・都築，1985）などからなる質問紙調査を実施した。

【結果】(1)配偶者に対する満足感：関係性達成型は、ほとんどのサブスケールにおいて、他のステイタスより有意に高い得点を示していた。一方献身的関係性型と関係性拡散型は、ほとんどのサブスケールにおいて、他のステイタスより有意に低い得点を示していた。総得点では、関係性達成型がすべてのステイタスより有意に高い得点を示していた（関係性達成型>表面的関係性型>妥協的關係性型・独立的関係性型>献身的関係性型>関係性拡散型）。(2)夫婦人生の受容：自己と配偶者がともに意義ある人生を送っていると認知している者の出現頻度が最も高かったのは、関係性達成型であった（全体の約4割）。また夫婦関係が最も円満な時期は現在であるとしている者の出現頻度が最も高かったのも、関係性達成型であった（全体の約5割）。これらの結果から、配偶者の存在に人格的価値を見出し、積極的関与をしている関係性達成型は、高齢期の夫婦生活において適応的であることが示唆された。